

第32期第18回常任理事会議事録

日時：2004年2月20日（金）13時30分～16時30分

会場：日本気象学会事務室（8階）

出席者：廣田，勝山，神沢，木田，田中，坪田，
萬納寺，山内，以上8人

その他の出席者：館，島村（事務局）

議 題

1. 第32期第17回常任理事会議事録の確認
2. 各委員会等の報告

庶務…転載許可

天気50巻8号p625-633の論文中欧文要旨と
図表，天気50巻9号p705-714の論文中欧文要
旨と図表を気候学談話会刊行予定の
「Japanese Progress in Climatology」へ転載

- ・後援名義等使用依頼受付

名称：第11回JCIEセミナー「人体と太陽
UV 防御」

- 1) 主催：(社) 日本照明委員会
- 2) 期日：2004年4月23日（金）
- 3) 場所：日本教育会館（一ツ橋ホール）7
階中会議室
- 4) 名義：協賛

- ・気象技術講習会「メソ気象」の実施状況につ
いて

2004年1月に気象業務支援センタと気象学会
の共催で開催された気象技術講習会「メソ気
象」の報告が気象業務支援センターからあつ
た。

- ・平成17年度科研費補助金審査委員候補者の情
報提供の依頼について

日本学術会議は平成17年度科研費補助金審査
委員候補者リストの提供を日本学術振興会に
対して行っている。地球化学・宇宙化学研究
連絡委員会が情報提供する細目「地球宇宙化
学」と分科「地球惑星科学」，海洋科学研究連
絡委員会が情報提供する細目「環境動態解析」
の審査委員候補者の情報提供について，気象
学会に依頼があった。

- ・第54回理論応用力学講演会の共催等について
共催，運営委員推薦の依頼があった。

会計…2004年1月分の収支報告

天気…Vol. 51 No. 2（2004年2月号）の掲載記事と

Vol. 51 No. 3（2004年3月号）掲載予定記事
の報告。

集誌…Vol. 82 No. 1b「GPS 気象学」特別号の掲載
内容の報告

気象研究ノート…205号「ウィンドプロファイラー」
を2月末刊行予定。206号「北極振動」は来年
度早々に発行予定。

講演企画…予稿集を投稿段階から電子化し，大会終
了後に公開することを検討している。J-
STAGEでも予稿集の掲示ができる。この報
告に関連して，電子投稿になっても投稿内容
のチェックは現在と変わらないことを確認し
た。

教育と普及…夏季大学は柏の気象大学校で実験を行
う方向で検討している。人数制限が必要にな
るだろう。

電子情報…2004年1月1～27日の気象学会ホーム
ページのアクセス状況（59,257件）。

- ・会員制度改定に関する掲示板を目立つように
した。ひきつづき200件近いアクセスはあるも
のの，発言は増えなかった。

地球環境…大会時に開催される公開講演会の準備を
進めている。

その他…電子レター誌の名称がほぼ確定した。最も
重要な編集委員の人選をこれから行う。創刊
の一般会員向けのお知らせを「天気」に掲載
し，海外にも宣伝する。

3. 会員の新規加入等について
新入会員22，退会12を承認。2月18日現在，会員
数4,238名（内通常会員3,786名）。
4. 日本気象学会定款・細則の一部変更について
担当の木田理事が説明した定款，細則の変更事項
について議論された。定款の中で今回変更する主要
部分である会費に関する項目のほかに，文科省に指
摘された細かい変更がある。現在文科省で審査中。
5月の総会で承認されるとして，6月に文科省に認
可される予定である。
5. 2004年度総会資料について
引き続き，加筆，修正事項を報告する。
6. 2004年度日本気象学会賞・藤原賞の投票結果の承
認

全理事による投票の結果、学会賞2件、2人、藤原賞2件、2人の候補者を受賞者と決定した。

[学会賞]

中村 尚 (東京大学大学院理学系研究科)

業績：中・高緯度の気候系と総観規模現象とのスケール間相互作用の力学研究

木本雅秀 (東京大学気候システム研究センター)

業績：グローバルな気候系の変動メカニズムに関する力学的研究

[藤原賞]

笹野泰弘 (国立環境研究所, 現在内閣府総合科学技術会議出向)

業績：ADEOS 衛星搭載センサー, ILAS の推進によるわが国における大気化学研究の発展に寄与した功績

山本孝二 ((株) ハレックス)

業績：気象予報士制度の発足, および, 民間気象業務の振興を通じた気象学知識の普及への貢献

7. 学会運営に関する諸問題 (継続) について
大会の会場費などの一部を研究機関が負担すること, 大会参加費を参加者の所属機関の研究費で負担することなどを検討した。担当の任理事の書面による資料に関して議論された。予稿集への投稿料を設けるとの可能性が示された。
8. 2004年度春季大会交付金の増額について
大会実行委員会の杉委員長からの大会交付金の増額の依頼を承認した。
9. 第6回理事会の議題について
議題の検討を行った。

定款・細則の一部改定および電子レター誌「SOLA」の創刊について

理事会

本号で提案されている総会議題に関して、定款および細則の一部改正と新規事業の電子レター誌「SOLA」の創刊について、概略を説明します。

1. 定款および細則の一部改正について

本号に掲載されている総会での理事会提案として、多数箇所の定款およびそれに伴う細則の改定案があります。これらの改定の要点を以下に述べさせていただきます。

定款改定においては、すでに昨年(2003年)の天気11月号に本提案の背景説明を致しました会員制度の一部見直しに関連する改定案と、文部科学省管轄法人の定款モデルとの整合性に関連する一連の改定案との2種類の改定条項が含まれています。前者の会員制度に関しては、定款第6条と第7条です。これ以外は全て文部科学省の定款基準に基づく改定です。

さて、第6条は、現行では会員の種別と会費との関係を同時に定めてあるものを、新定款では会員の種別のみを定め、会費区分については細則に移して定めるよう改定するものです。従って、そのための該当細則の改定を同時に平行して行います。即ち、細則第2条、第4条、第5条および第18条などです。

今回の改定は、単に定款の形をモデルにならって見易く整えるというだけではなく、その趣旨は、特別会員についての従来の解釈を拡張して、細則において新解釈に基づく特別会員の区分を定めます。現行の特別会員を、民法上の社員としての義務と権利を有しない会員と新解釈する改定です。社員としての義務と権利とは、具体的には、総会の議決権(役員選任も総会議決事項)と考えてよく、それ以外については、社員と非社員との基本的な差はありません。大事な点は、通常会員または特別会員のいずれになるかは会員個人の自由意思による選択に委ねられ、また会費納入の時期にその種別を変更することも認められます。念のため申し添えますが、これまで実施されてきた役員選挙の選挙権は、通常会員に対して与えられているものですが、これを特別会員にまで拡張するかどうかについては、検討中であり、少なくとも、今回の改定では、選挙権を希望する会員は、社員としての義務と権利を考慮の上、通常会員を選択すれば問題ないと考えられます。

会員制度に関わる細則第4条および第5条では、会費の額を通常会員と特別会員とで差は設けてありません。いずれの会員であっても会員としての利益性に関